

社会福祉法人けやきの杜 令和6年度事業報告



法人理念 「一人ひとりの想いを支える」

- | | |
|-----|------------------------|
| P01 | 法人本部（法人全体としての取り組み） |
| P04 | 希望園 |
| P06 | ワークセンター・さくら |
| P07 | 食彩工房プラスワン |
| P09 | 地域共同生活支援センター・レハイム/キッピス |
| P10 | 短期入所カペラ |
| P11 | ライフネット |
| P12 | 小規模多機能むさし |
| P13 | 放課後等デイサービス・ルーチェ/第2ルーチェ |
| P15 | 地域活動支援センター虹 |
| P16 | 国分寺市障害者就労支援センター |

法人本部（法人全体としての取り組み）

今年度の成果/達成できた事項

高齢化プロジェクトを開始しました。武蔵野大学 木下教授の協力を仰ぎ、DSQIID 調査や生活歴の聞き取りを進めてご家族等への報告会を実施しました。

第2期中長期経営計画（令和7～11年度）を策定しました。幅広い年齢・職階で構成されたプロジェクトチームが中心となって議論を深め、職員全体で計画を共有することができました。

事業活動収支 2,000 万円超の繰り越しに加え、施設整備等収支、その他の活動収支を含めてもおおよそ 1,000 万円の当期資金収支を計上できました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

新たな事業展開や組織力強化に向けた人材確保の取り組みを更に強化するとともに、若手・中堅職員が成長して力を発揮できるよう継続的な職員研修が必要です。

法人運営が更に安定して継続できるよう、各事業の収支バランスを整えることが重要です。今後の事業継続や大規模な修繕を視野に入れると、減価償却費程度（約 2,000 万円）の当期資金収支が必要となります。

令和6年度は第1期中長期経営計画の最終年度でしたが、これまでの経営安定化に向けた取組成果が現れ、3年連続で事業活動収支を繰り越すことができ、1,000 万円超の当期資金収支を計上しました。法人全体の収支は安定傾向にありますが、事業所ごとに目を向けると放課後等デイサービス・ルーチェと小規模多機能むさしは収支のマイナスが続いており、経営的な課題となっています。今後の事業継続は大規模な修繕等を考慮しますと、経営基盤の安定・強化は急務と言えますので、次年度以降は改善に向けた取り組みを強化する必要があります。

支援面においては、ご利用者の高齢化と重度化に対応できるよう、職員の支援力向上に取り組みました。今年度より高齢化プロジェクトを本格的にスタートさせ、武蔵野大学 木下教授にご協力をいただきながら「ダウン症のある方への支援の構築」についての調査を実施しました。DSQIID を用いた認知症の調査や詳細な生活歴の聞き取りを進めながら、日常の支援、プログラムの構築に反映させる等、プロジェクトメンバーが中心になって取り組み、その経過・成果を全常勤職員会議等で全職員に共有を図りました。本プロジェクトに対しては、ご利用者ご家族等からの期待も大きく、今年度はプロジェクトの概要や取り組みについての報告会を実施しました。

また、小規模多機能むさしの共生型生活介護を開始して介護保険や障害者福祉、相互の枠組みにとられないサービスを提供しました。希望園ご利用者の体験利用を通じて、希望園とむさしの職員が交流や情報共有をするとともに介護・支援について学ぶことができました。

業務効率化を推進すべく、今年度より個人情報保護、感染症予防、虐待防止等の研修については、講義を動画収録して職員に配信する形式を採用しました。これにより職員個々の勤務状況に合わせた研修受講が可能になるとともに、研修報告書についても書面ではなく、Google フォームを用いた報告にすることで研修報告状況の管理・分析が容易となり、業務の効率化を図ることができました。

特に福祉業界における人材不足が深刻化する中、今年度は5名の大学生から内定承諾を得ることができました（※令和7年4月より5名全員が入職）。新卒採用を毎年度継続することにより、事業継続に必要な人員を紹介型を含む派遣社員や中途採用に頼らず確保できています。次年度以降においても新卒・第二新卒を中心とした採用活動に一層注力し、法人の理念に共鳴できる人材の確保に努めます。

人材確保と同等に重要なのが人材育成です。けやきの杜では一般職員総数の3分の1を20代が占める若い組織であり、今年度は入職1年目から3年目の職員に対して計画的にOJT及びフォローアップ研修を実施しました。また20代の職員を行動援護及び同行援護の従事者養成研修に順次派遣したほか、移動支援のグループ外出にヘルパーとしての派遣を行い学びと経験を深められるよう取り組みました。

(1)年間計画

理事会	4回開催
評議員会	1回開催
けやきフェスタ	9月14日(土)開催
ふれあい防災訓練	12月7日(土)開催
広報誌の発行	3回発行

(2)会議

全常勤職員会議・研修	法人理念に基づいた事業方針を共有するとともに、職員間の理解及び交流を活性化してワンチームとしての意識を醸成することを目的に開催しました。	年4回
本部経営会議	法人の経営及び運営業務執行を検討し、必要に応じて理事会への上程を行いました。	第2・4水曜
主幹調整会議	主幹専決事項の検討、執行及び執行状況を確認しました。また、事業所間で連携し、情報を共有するとともに必要な事項を本部経営会議に上程しました。	月1回
事務会議	法人及び各事業の事務に関する確認及び検討を行いました。	第3月曜
事業従業者会議	各事業所の運営に関する事項を協議検討しました。	月1回
ケース・ケア会議	各事業所の支援方針、個別ケースを検討しました。	月1回
給食会議	事業所の給食に関する検討をプラスワン従業者会議に合わせて行いました。	月1回

(3)委員会

虐待防止・権利擁護委員会	虐待防止規程に基づいて、職員に対する啓発活動その他虐待防止のために必要な措置を講じるとともに、虐待の疑われる事案が発生した場合には、速やかに事実関係を調査し、適切に対応しました。	年4回
苦情解決委員会	ご利用者等からの苦情申し立てに対し、その対処方針を審議するとともに、苦情解決責任者に対して苦情への対応に関する必要な助言及び指導を行います。 今年度は苦情申し立てがなく開催はしませんでした。	適宜
安全管理・総務委員会/感染対策委員会	総務、安全管理及び衛生推進に関して、各事業所及び法人全体で確認すべき事項の協議を行いました。	第3木曜
研修育成委員会	計画的に職員を育成するために、外部研修への派遣や内部研修を企画しました。	月1回
広報委員会	広報誌を編集し発行するとともに、法人ウェブサイトを更新しました。	月1回
けやきフェスタ実行委員会	けやきフェスタの企画、立案及び準備を行いました。	
DCT委員会	ご利用者に対する「性の基礎知識」や「命の大切さ」の講座を企画するとともに、支援力の向上を図りました。	月1回

(4)その他

安全管理	事故やリスクに関する情報を安全管理総務委員会で収集して再発防止に努めました。 事故発生時は迅速かつ適切に対応するとともに、事象に対する情報を収集して再発防止のために業務を改善しました。
防災対策	災害時に備えて非常食及び飲料水を3日分常備しています。 自衛消防隊を編成するとともに避難訓練を行い、また、ふれあい応援協定に基づいた合同防災訓練を実施しました。
権利擁護	権利擁護研修を全役職員に実施して虐待防止及び権利擁護への理解を深めるとともに、身体拘束適正化のための対策を職員に周知徹底して権利擁護を重んじる法人組織を目指しました。
個人情報保護	個人情報保護規程に基づいて、法人が保有する個人情報を適切に取り扱い、個人の権利利益の保護に努めました。
法人広報・情報公開	法人ウェブサイト及び広報誌を活用して法人事業の周知並びに情報公開を図りました。

希望園（生活介護・就労継続支援 B 型）

【生活介護】

今年度の成果/達成できた事項

小規模多機能むさしとの連携や高齢化プロジェクトを通じて、高齢化するご利用者の支援についての理解や支援の向上を図ることができました。

既存のプログラムを整理し、特にご利用者のニーズに沿ったものや、地域との繋がりが感じられるものに注力して取り組むことができました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

小規模多機能むさしとの連携や高齢化プロジェクトを通じて、職員が更に高齢化・重度化に対する知見を深めるとともに、より適したプログラムや環境の構築が必要です。

小規模多機能むさしとの連携を進めました。今年度はご利用者 1 名が週 2 日小規模多機能むさし共生型生活介護の利用を開始し、入浴サービスの利用等、生活面での支援の向上に結び付けました。加えて、4 名のご利用者が体験利用をされ、将来に向けてご本人に合った事業所選びを行いました。小規模多機能むさしとの連携強化や高齢化プロジェクトを通じて、希望園・むさし双方の職員が互いのご利用者を理解し、支援を向上させることに繋がったと感じています。

希望園内では高齢化が進むご利用者への対応として、事業所内での人員配置を調整し、個別での外出活動や作業支援を行いました。次年度においても引き続き、高齢化されていくご利用者へのプログラムの充実を目指して進めていきます。

作業・生活プログラムに関しては、年に 3 回、国分寺セレオやマルイにてキャンドルのワークショップを企画し、そのための準備を定期的に行いました。また、自主生産品としてキャンドル制作にも取り組みました。加えて、資源回収の範囲を広げ、ポスティングの作業量を増やし、市から受託をしている緑化委託業務活動の土づくりを定期的に行えるようプログラムを調整し、常に必要な作業量を確保しました。また、各プログラムにおいてご利用者のニーズを整理し、マニュアル作成を行い、統一した支援が行えるよう取り組みました。

希望園生活介護データ

定員：20 名 令和 6 年度利用率：100% 平均支援区分：4.9 平均年齢：42.0 歳

【就労継続支援 B 型】

今年度の成果/達成できた事項

新規のポスティング作業を複数獲得でき、平均月額工賃は 30,961 円と目標を達成できました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

国分寺市庁舎の移転・集約に伴う契約面積減により、主力である清掃作業の大幅減収が確実にありますので新たな作業確保が必要です。

今年度新たな就労者を出すことができませんでした。就労希望者に対しては支援プログラムを継続して提供するとともに、面接会や企業実習等に参加する機会をより増やして支援します。

ポスティング作業は地域企業からの単発の発注が増え、収入が昨年度に比べ 71.2 万円増えました。清掃作業は、1 月より大きな収入源であった市役所清掃が庁舎移転に伴い清掃時間が減少し、29.5 万円の減収となりました。しかし、室内作業は 11 月より新たに美容マスクの封入及び発送作業を開始し、加えてお仕事ネットワークを通した単発の作業も増えたため、55.4 万円の収入増となりました。全体の作業収入は昨年度に比べ 97.1 万円の増収となり、平均工賃も 732 円増と目標数値を達成いたしました。

令和 6 年度 就労事業収入

ポスティング作業	2,784,330 円	(前年度比 712,000 円増)
清掃作業	6,193,335 円	(前年度比 295,000 円減)
室内作業	815,194 円	(前年度比 554,000 円増)

就労事業収入（全体）	9,792,859 円	(前年度比 971,000 円増)
月額平均工賃	30,961 円	(前年度比 732 円増)
(令和 6 年度 作業収入目標 8,888,000 円 平均月額工賃目標 30,763 円)		

今年度は「他者との適切な距離感」についての学習講座を実施しました。予定していた隔月での実施はできませんでしたが、普段のプログラムの中でも講座の振り返りを行い、作業スキルのみならず社会スキルの向上に向けての取り組みを行いました。

一般就労に向けたプログラムを定期的に実施しました。SST やビジネスマナーといった講座だけではなく、合同面接会への参加や東京しごと財団における企業実習への申し込み等に取り組んだものの、令和 6 年度中に一般就労者を出すことはできませんでした。しかし、プログラムを通じてご利用者の就労への意識は高まっており、5 名のご利用者が就労を希望されています。次年度においても継続して就労支援プログラムを取り組みます。

希望園就労継続支援 B 型データ

定員：20 名 令和 6 年度利用率：98% 平均年齢：44.0 歳

ワークセンター・さくら

今年度の成果/達成できた事項

ご利用者個々の特性に配慮して活動グループやスペースの見直しを行うとともに、ご利用者にとって見通しが良くなるようスケジュールの固定を徹底したことにより安定した活動ができました。

職員の先入観を排してご利用者ができること、楽しめることは何かを改めて模索しました。新たにプールや和太鼓のプログラムを導入し、ご利用者の活動の幅が広がりました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

休憩時間の過ごし方や特性に配慮した設定等、より支援度の高いご利用者が安定して取り組めるよう更なる工夫が必要です。

老朽化が目立つ施設の改修に向けた準備が必要です。

自閉症スペクトラム症を持つご利用者にとって、ルーティーン化された作業プログラムは見通しが持ちやすく、日々の安定につながります。その作業内容は継続しつつ、ご利用者の特性に応じた各活動の小グループ化、音声刺激の苦手なご利用者に配慮した活動スペースの個別化等により今年度のトラブル件数は減少し、安定した活動ができるようになりました。

生活プログラムとして今年度の事業計画では調理の定期的な実施を予定していましたが、ご利用者同士の関係や特性により事業所内でできる内容に限られ、1年間を通して数回の実施に留まりました。次年度は福祉センターでの実施も検討し、目的やテーマについて職員間で共通した見解を持ったうえで準備を進め実施したいと考えています。

造形プログラムにおいては、「できないのではないかと」という先入観を持たず、個々のご利用者ができる形を模索していく」という活動方針を掲げ、講師の指導のもと取り組みました。ご利用者も楽しんで参加できていることから次年度も継続する予定です。また新たにプールと和太鼓のプログラムを企画し、ニーズがある方を対象に実施しました。

ご利用者が見通しを持ちやすくするために、プログラムの組み立てにワークシステムの活用や、休憩時間中手持ち無沙汰となっていたご利用者に新しい役割を担っていただいたことで、ご利用者が1日を通して安定して過ごせるようになりました。週間予定についても曜日や職員都合によってスケジュール変更することをなくし固定化したことで、ご利用者が混乱することないように配慮をしました。ただし、休憩時間の過ごし方については、まだいろいろな試みをする余地はあり、今後の課題と考えています。

ワークセンター・さくら データ

定員：20名 令和6年度利用率：95% 平均支援区分：4.9 平均年齢：37.5歳

食彩工房プラスワン

今年度の成果/達成できた事項

受注量拡大や外部販売に積極的に取り組み、作業収入目標(4,254万円)を達成できました。

菓子製造やパン製造では、より多くのご利用者が作業に取り組めるよう、作業工程の見直しを行いました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

物価高騰により原材料の仕入れ価格が上昇しています。収益を圧迫することとなり工賃に及ぼす影響も大きいことから、上昇経費の価格転嫁についても検討する必要があります。

受注量拡大や外部販売に注力した結果、食材事業全体の収入はおよそ270万円増加しました。今年度にフライヤーを導入したことによりメニューのバリエーションが豊かになるとともに、揚げ物作業の安全性も向上しました。菓子製造においては、新たなレシピでの試作や、ご利用者が関われる作業工程を増やす工夫を行いました。今後は、季節感のある菓子の製造や販売経路の拡大を図ってまいります。

集団の中での作業が難しい方には食材の仕分けや翌日の準備作業を、体力面や障害特性により食材作業が難しい方には新たにプラバン制作を実施する等、個々の特性や希望に応じた作業が提供できるよう工夫しました。

令和6年度 就労事業収入	42,931,213円	(前年度比 2,754,270円増)
月額平均工賃	26,433円	(前年度比 618円増)
(令和6年度 作業収入目標 4,254,000円 平均月額工賃目標 26,000円)		

新規利用者の獲得に向けて、近隣の就労支援センターへ募集の案内を行いました。あわせて、他事業所での受け入れが難しいケースについても、武蔵台特別支援学校、基幹相談支援センター、立川学園との連携を強化し、3名の新規契約に繋がりました。

就労を希望されるご利用者に対し、一般就労に向けて支援を行い、職員のサポート業務を担っていただくことで経験値を高めました。また、企業や関係機関と連携を取り、面接会への参加や実習も実施しました。

食彩工房プラスワン データ

定員：40名 令和6年度利用率：56% 平均年齢 37.4歳

通所3事業（希望園・さくら・プラスワン）共通項目

■個別支援計画・モニタリング・個別面談

面談を実施し、サービス等利用計画を基に個別支援計画を作成しました。また、6ヶ月ごとにモニタリングし、必要に応じて個別支援計画を見直しました。ただし、状況の変化があった場合には、その都度個別支援計画を変更しています。

■健康管理

協力医療機関による隔月の問診(血圧測定、体重測定含む)と、希望者を対象とした年1回の総合的な健康診断(実費負担)を実施しました。法人で実施する健康診断だけではなく、区市町村の健康診断等を必要に応じて受けられるように情報提供を行いました。

■消防訓練・非常災害対策

自衛消防隊を編成して毎月避難訓練を実施しました。また、地域防災協定に基づく合同防災訓練を実施しました。災害時に備えて非常食・飲料水等を3日分常備しています。

■給食の提供

管理栄養士による献立を作成し、栄養価が計算されたバランスの良い給食を提供しています。持病やアレルギー等、摂食状況に配慮した食事形態等についてご利用者それぞれの状況に対応しました。また、ご利用者ごとの摂取量と体重の記録を付け、健康の維持管理に努めました。

■送迎の実施

希望者には、送迎及びその車両運行管理を実施しました。

■通所事業所の祝日開所

祝日開所日には作業以外の楽しめる活動を募集・企画し、ご利用者が休日を過ごすための選択肢の一つとなるよう取り組みました。

■異性との交流に関する取組

DCT委員会と連携し、祝日開所日のプログラムの中で性や人との関わり方について取り組みました。

地域共同生活支援センター・レハイム

地域共同生活支援センター・キッピス

今年度の成果/達成できた事項

セキュリティカメラの増設や服薬管理ボードの導入等、事故防止に向けた取り組みを強化し、今年度の事故件数を減少させることができました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

令和7年度中の新ユニット開設に向けて協議を進めていましたが、当該案件は建築工事価格の高騰により条件面での合意に至りませんでした。別案件にて令和8年度中での開設に向けた準備と交渉を進めます。

拠点事務所での事務機能の集約、グループウェアやワンドライブ、セキュリティカメラ導入等 IT ツールの活用、非支援業務に携わる非常勤職員の雇用を進め、「ユニット長はユニット長しかできない質の業務」に集中できる環境を整備しました。それによりユニット長が面談やユニット内の環境整備、非常勤職員への OJT に注力することができました。

ユニット長を中心として個別支援計画等を通じてご利用者の人生がより希望に沿ったものになるよう、日々の支援や面談を行いました。ご家族・ご後見との面談や連絡帳でのやり取り、家族会を通じて利用者ご本人のみならず、ご家族や関係者ともかかわりを積極的に持ち、安心してご利用いただけるグループホームになるよう取り組みました。

令和5年度よりユニット内にセキュリティカメラ導入しましたが、セキュリティカメラの導入により、事故やトラブルがあった際、録画映像を見直すことで原因の究明と、再発防止策を講じる検討材料となっています。今年度は更にマイホーム・みかさとマイホーム・いぶきの2ユニットにも導入し、カメラについたマイクでユニット長等が夜勤職員へ声掛けをしたり、夜勤職員の相談にのることができ、迅速な指示伝達と支援の向上をすることができました。また、一部ユニットにおいて服薬ファイルを変更し、セキュリティカメラからでも服薬状況が監視できるようにしたことで、服薬ミスの減少につなげることができ、職員の服薬に対する意識の向上も見られました。

令和7年度に新規ユニットを開設することを目指し、物件の検討やご利用者のニーズ等の検討を進めてまいりましたが、令和7年度内の開設には至りませんでした。しかし、けやきの杜の新規ユニット開設にご期待いただいている方もいらっしゃると思います。引き続き、ニーズの実現、重度障害者受け入れ実現のため、令和8年度内に開設ができるよう準備を進めます。また、既存ユニットや新規ユニットへの対応も含め、夜勤支援職員を中心とした非常勤職員の確保と、支援力向上及び支援に対する意識の向上ができるよう研修を継続いたします。

延べ利用日数

レハイム	13,738 日(昨年度：13,641 日)
キッピス	6,957 日(昨年度：6,972 日)
グループホーム全体	20,695 日(昨年度：20,613 日、昨年度比率 100.3%)

レハイム・キッピス データ

定員：レハイム 42 名 契約者数 42 名 / キッピス 22 名 契約者数 22 名
令和 6 年度利用率：レハイム 89.7% / キッピス 86.8%
平均支援区分：レハイム 3.9 / キッピス 4.8
平均年齢：レハイム 48.5 歳 / キッピス 43.7 歳

短期入所カペラ

今年度の成果/達成できた事項

今年度は 5 名の新規利用契約のほか、長らくご利用されていなかった方の利用もあり、ご利用者数・稼働日数が増加しました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

年間稼働日数は目標の 360 日には届きませんでした。独立性の高いワンルームタイプで定員 1 名という短期入所であるため稼働日数の増加には限界がありますが、刺激が苦手な方や、個別対応を望まれる方にとっては適した環境ですので、次年度も積極的にご利用を提案します。

近年の短期入所カペラはほぼ固定化した 6～7 名の方が定期的に利用されている状況でしたが、今年度は 5 名の新規ご利用者を迎えることができました。年間稼働は 308 日と、目標(360 日)には届かなかったものの、前年度実績(254 日)を大きく上回ることができています。ワンルームタイプの特性を活かして、刺激が苦手な方や、個別対応を望まれる方にとっても安心して過ごせる場になるよう、丁寧な支援を心掛けました。

ライフネット

今年度の成果/達成できた事項

移動支援の年間派遣時間は 8,010 時間と目標に到達し、ようやくコロナ禍以前の水準に回復することができました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

移動支援の新規ヘルパー獲得数は前年度を上回ったものの 11 名に留まり、目標の 15 名には届きませんでした。

新規のご利用や、週末グループ外出による利用が寄与し、今年度における移動支援の総派遣時間は 8015.5 時間と目標の 8,000 時間を僅かに上回り、コロナ禍前の水準に回復することができました。

新規ヘルパーの登録については 11 名と目標の 15 名には届きませんでした。令和 5 年度を上回る人数の登録をしていただくことができました。

6 月と 2 月には国分寺市移動支援連絡会(※)として、移動支援従事者養成講座（以下、養成講座とする）を開催し、合計 49 名が受講しました。これまでは養成講座受講者のヘルパー登録が低調でしたが、今年度は登録への働きかけを強化したことに加えて、養成講座受講後も自信が持てずにヘルパー登録を迷っていた方には週末グループ外出へのボランティア参加を提案する等、より安心してヘルパー業務にチャレンジしてもらえよう工夫をしました。その結果、養成講座受講者より 6 名のヘルパー登録に繋げることができています。

また、登録ヘルパーに対する研修も、国分寺市移動支援連絡会加盟事業所と合同で実施しました。当日は講義とグループワークを実施することによりヘルパーの支援スキル向上を図るとともに、ヘルパー間の情報交換やコミュニケーションを図る意義ある機会となりました。

※国分寺市移動支援連絡会

市内で移動支援事業を実施している事業所と国分寺市手をつなぐ親の会で構成している連絡会。

移動支援従事者養成講座は国分寺市移動支援連絡会が市より委託されて実施している。

ライフネット データ

令和 6 年度派遣時間

移動支援 8,015.5 時間/居宅介護 1,065 時間/日中一時支援 502 時間

小規模多機能むさし

(小規模多機能型居宅介護/共生型生活介護)

今年度の成果/達成できた事項

訪問を強化するとともに、緊急でのステイ受け入れにも柔軟に対応できました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

6名の新規ご利用者を獲得したものの、入院・施設入所・ご逝去等で7名の減となり目標としていた21名の登録には至りませんでした。次年度は共生型生活介護を含め、より積極的な利用拡大を目指します。

「高齢になっても住み慣れた我が家で暮らしたい」という願いを支え続けるべく、今年度も関係機関との連携を大切にし、積極的な支援に取り組みました。中でも、他機関での対応が困難であった方や、ご家庭での介護が行き詰まり緊急での対応が求められる方に対しては迅速かつ臨機応変な対応を心掛け、スムーズなサービス利用に繋げることができました。また、ご家族の体調や環境の変化にともない、ロングステイでのご利用を受け入れも複数回あり、今年度においても小規模多機能の特性を大いに発揮した支援ができたと考えます。

今年度の共生型生活介護ご利用は1名に留まっていますが、次年度に向けた体験利用を希望園と連携して実施し、次年度からは更に2名のご利用が予定されています。

今年度は収支改善に向け、訪問体制強化加算（月間200件の訪問数及び訪問要員2名の配置）を取得できるよう特に訪問を強化して取り組んでいましたが、訪問対象ご利用者のロングステイ利用等の状況変化があり、訪問回数が想定より減少したため加算の申請には至りませんでした。

事業所内での支援となる「通い」「泊り」とは異なり、ご自宅内で支援・介護を提供する訪問は、地域生活を支える上でも最も重視すべき機能です。次年度においても訪問を更に強化して取り組みます。

より多くの新規ご利用者をお迎えすべく、地域住民向け施設見学会や市内ケアマネジャー向け施設見学会を複数開催するとともに、地域包括支援センターに対しては定期的な訪問・情報提供を行った結果、今年度は6名の新規ご利用をいただきました。しかし、年度内にご利用者の入院、施設入所、ご逝去が重なり、新規ご利用者数を上回る7名が利用解除となり、結果的には年度当初のご利用者数（18名）を超えることができませんでした。

想定延べ登録利用者数 介護保険 234 名 共生型生活介護 21 名

実延べ登録利用者数 介護保険 209 名 共生型生活介護 12 名

小規模多機能むさし データ

定員：25 名 令和6年度ご利用者数：介護保険 16 名・生活介護 1 名 平均介護度：2.4

放課後等デイサービス・ルーチェ/第2ルーチェ

今年度の成果/達成できた事項

障害福祉サービス等報酬改定に伴い、求められる5領域を満たす支援について明確化し、計画的にきめ細やかな支援を提供できました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

延べ利用者数は1,904名と目標の2,160名に届かず、前年度を下回ってしまいました。契約者数は十分であり利用予定は入っているもののキャンセルが多く、その対応が不十分でした。次年度はキャンセルの早期把握とともに、一定程度のキャンセルを想定した利用予定に取り組む必要があります。

ルーチェの提供しているプログラムは独自性が高く価値あるものですが、現状の収支では事業の継続に向けて抜本的な改革の必要があります。

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定に伴い、個別支援計画の中に「5領域（健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間性・社会性）」の視点を全て含め明確化し、サービスを提供しました。プログラム計画時には、今までの支援一つ一つを見直し、どの領域に対応するのかを職員が確認するとともに、新しく「集団活動」として5領域を踏まえたテーマを1週間ごとに設定し、取り組みました。具体的には、「トランプ」「室内ゲーム」「クイズ」等、一定のルールの中で社会性を育み、コミュニケーション能力やその他の領域にもつながることを意識し、それぞれの個別支援計画に合わせて取り組みました。

学習プログラムは、ルーチェ活動の軸として継続して取り組みました。学習時間は公文メソッドを中心に取り組んでいますが、個別教材を用いて個人の意向に合わせた教材を提供したご利用者もいました。具体的には、受験や漢字検定等に合わせた教材の準備、個人の課題に合わせたプリントの作成、課題提供を行いました。ご自分の個別学習に取り組む方が増え、学習の個別化・多様化に合わせ、きめ細かい支援を行いました。その効果として、ご本人の達成感や自己肯定感を高めることができました。

日々の生活の課題によくあげられるものとして、金銭の計算があります。職員と一緒におやつを買いに行き、所持金で何がどれだけ買えるかを、一緒に計算し取り組んでいます。また、夏休みのプログラムで、希望園の販売スペースをお借りし、金銭のやり取りだけでなく、販売、接客体験を通じてお客様への挨拶や、相手の気持ちを考える良い機会となりました。令和6年度は、第2ルーチェと合同でSSTを行い、普段一緒に活動しないご利用者と協力し合い、楽しく過ごす経験ができました。今後も取り組む予定です。またルーチェは駅から近いこともあり、自主通所が行いやすい環境にあるため、最初は職員が付き添い、最終的には1人で通って来られるようになった方が増えました。今後も「通所自立支援」として取り組んでいきます。

令和6年度は、目標延べ利用者数2,259名に対し、延べ利用者数は1,904名となり、令和5年度の1日の平均利用者数8.1名に対し、令和6年度の1日の平均利用者数は、令和5年度を下回る、7.6名となりました。「ルーチェは楽しみ」というご利用者の声も多く聞かれるため、サービス内容の不满よりも、体調不良等で突発的な欠席が多かったことや、長期休暇中や土曜日登校によって欠席者が出た際、他のご登録者に利用を提案するといった、利用率を高めるための積極的な取り組みが不十分であったことが要因と考えます。今後、早めに出欠状況を把握し、募集することと同時に、曜日ごとの登録人数をあらかじめ増やし、欠席する方が出ても出席者を確保できるよう対策していきます。

通所時のサービス提供記録の連絡欄や、オンライン連絡ツール、電話、メールによりご家族と連絡を取り、情報共有を行いました。また半年ごとの「モニタリング面談」を通じて、ご家族の意向や困り感を共有しています。保護者会では、中学生、高校生のご家族から小学生のご家族へ体験談を話していただく等、ご家族間の貴重な情報共有の場となりました。

延べ利用者数

令和6年4月～令和7年3月 延べ利用者数：1,904名
(1日の平均利用者数 7.6名)

放課後等デイサービス・ルーチェ/第2ルーチェ データ

定員：ルーチェ 10名 第2ルーチェ 10名

契約者：ルーチェ 39名 第2ルーチェ 38名

1日の平均利用者数：ルーチェ 7.6名 第2ルーチェ 7.3名

地域活動支援センター虹

今年度の成果/達成できた事項

増加を続ける計画相談支援（指定特定相談支援・指定障害児相談支援）ニーズに応え、望まないセルフプランを回避すべく新規契約希望者の受け入れに努力しました。

地域活動支援センターとして市内関係機関と連携し、孤立の恐れがあるご利用者・ご家族や、福祉サービスから離れてしまったご利用者の支援について注力して取り組みました。

今後取り組むべき課題/改善を目指す事項

計画相談支援の契約件数は 212 件に達しました。支援に要するマンパワーも十分とは言えず、結果的にモニタリングの実施が不十分な状態が継続しています。

次年度は職員を増員してモニタリングの向上を図る必要があります

令和 6 年度も様々な創作活動や作業機会の提供等、活動の充実を図りました。ご利用者の希望に応じて外出や茶話会等を企画するとともに、宅配寿司の箸セット封入やチラシの丁合作業等、室内作業を常に確保し、創作活動や作業機会を提供しました。

また、施設通所や就労している方が気軽に立ち寄れ、相互交流や当事者活動、相談ができるような環境作りに取り組みました。

地域課題でもある相談支援体制の強化に取り組みました。国分寺市第 7 期障害福祉計画の方針を受け、相談支援専門員資格を有する職員を 1 名増員することにより、相談支援の新規ご利用者を受け入れることができました。体制を強化したことにより、計画相談支援の契約件数は前年度から 16 件増加の 212 件に達しましたが、プラン作成以外の支援や対応に要する時間も比例して増加し、モニタリングの実施については不十分な状態が継続しています。

地域共生社会に向けた普及啓発の取り組みとして、市内小学校高学年を対象とした第 15 回こども作文コンクールを実施しました。今回は過去最多となる 520 作品の応募があり、12 月の国分寺障害者週間行事において、ニコニコアート展（東京国分寺ロータリークラブ主催・市内中学校特別支援学級生徒を対象とした絵画展）とともに受賞者の表彰式及び作文朗読を行いました。当日はケーブルテレビの取材が入り、受賞者のインタビューが放映される等、例年以上に効果的な発信ができました。

地域活動支援センター虹データ

計画相談支援契約者数 212 件（前年度比 16 件増）

特定相談支援 168 件（9 件増） 障害児相談支援 44 件（前年度比 7 件増）

国分寺市障害者就労支援センター

国分寺市障害者就労支援センターは、国分寺市の委託を受け、国分寺市の全面的な支援の下、地域における障害者の一般就労の機会の拡大を図るとともに、障害者が安心して働き続けることができるような就労支援を展開しました。

令和6年度は、国分寺市役所内での職場実習、特例子会社や障害者雇用で実績のある企業の見学・実習の実施、必要に応じて職業センターの職業相談や訓練校・就労移行支援事業所等の情報を提供してご登録者の就労に向けた準備性（※）を整えました。

雇用啓発・職場開拓では、国分寺市内の企業の方、求職している方、就職を希望している方及びそのご家族や福祉施設の支援者に向けて、障害者雇用で実績のある企業にご協力いただき「障害者雇用セミナー」を開催しました。また、当センターの職員が国分寺市障害者地域自立支援協議会・就労支援地域連絡会(国分寺市就労支援プラン見直し検討委員会)に委員として参加することで、職場開拓や障害者雇用の啓発等の具体的な取組を共有する重要な機会となりました。

求職活動の支援では、求人票を出している企業はもちろん、企業見学や実習を行っている企業もあるため、ご登録者や関連機関等と相談しながら継続しました。また、小平市障害者就労・生活支援センター「ほっと」等の近隣市の就労支援センターと協働し、ハローワーク立川とのマッチング会議を3回開催しました。ハローワークはもちろん、各自治体の就労支援センターや障害者就業・生活支援センター等とも連携を密に取りながら相互に情報を共有し、ご登録者の要望に応えられるように努めました。

令和6年度は新規ご登録者が26名となり、ご登録者数の事業数値目標310名を上回る318名となりました。相談件数としては令和5年度と比較して172件の増加となりました(令和5年度5,974件、令和6年度6,146件)。相談内容は生活面や健康面、金銭面、高齢化等多岐にわたり、関係する機関も増えて多様化・複雑化しており、就労支援以上に生活支援のニーズが増えている状況にあります(令和5年度と比較して437件増加)。また、生活支援や不安解消の電話相談の場合、日に複数回、長時間となってしまうこともあります。同日同内容では複数回対応していても、件数は1件で集計しているため、数字で見る以上にニーズは大きく、様々な知識や経験を必要としている状況です。令和6年度は、同一のケースについて複数の職員で対応する等、職員間の情報共有を心がけて対応しました。

今後も、ご登録者個別のニーズ(就職・職場定着・豊かな生活等)が実現・継続できるように「企業への障害者雇用の啓発」「職場開拓」「職場定着支援」等を強化し、障害施策や福祉施策、障害者雇用施策を理解・把握して日々修練してまいります。そして、国分寺市商工会等の関係団体と連携しながら地域におけるネットワークを形成し、就職を希望する障害者のニーズに応えられるように実績・事例を蓄積します。

(※) 就労に向けた準備性とは、職業生活を開始するに当たって要件を準備すること。例えば、職業生活をはじめていくのに必要な身体条件、体力、仕事に対する意識、上司や同僚とコミュニケーションをしていくための能力、必要な技術、技能の獲得等

(出典:職業リハビリテーション用語集第2版)

1. 事業内容

就労面の支援			令和6年度実績	令和5年度実績	増減
	職業相談	内容	支援対象者及び家族又は事業主等からの就労全般に関する相談		
		件数	736	517	+219
		増減理由	就職前のご登録者及び家族・支援事業所からの相談や離職者・転職希望者の相談が増加しているため、相談件数が増加しています。		
	就労準備支援	内容	仕事に取り組む姿勢や社会性、職業能力を高める等の就労に向けた支援		
		件数	137	139	▲2
		増減理由	ご登録者の障害発症の状況・生育歴や学歴・職歴等を詳しく聞き取り、適性・力量を把握しながら実施しました。件数はほぼ例年通りでした。		
	職場開拓	内容	ハローワークと密に連携し、ご登録者の適性・ニーズに合った雇用先を開拓 職場実習を希望するご登録者が随時実習に入れるように協力企業を開拓		
		件数	184	159	+25
		増減理由	令和5年度に引き続き、地域のイベント(ぶんじハロウィン)に参加し、地域と交流してお互いに理解を深め合い、実習受け入れ企業の開拓にむすびつけられるよう、顔の見える関係を目指す活動を行い、件数は微増しました。		
	職場実習支援	内容	職場実習の際の出勤前準備、職務分析及び実習援助等について、事業主等へのご登録者に対する理解を促進し、職場環境を調整		
		件数	204	157	+47
		増減理由	企業実習を行うご登録者が微増し、市内就労支援事業所の市役所実習希望者が増加したため(令和5年度16人、令和6年度30人)、件数は微増しました。		
	職場定着支援	内容	就職時の労働契約の締結にあたっての支援やご登録者が安心して働き続けられるように一定期間職場内で行う支援 職場でのトラブルを未然に予防し解決するために、定期的に又は随時、面談や職場訪問等の実施及びご利用者、ご家族及び事業主等に対して行う助言や調整		
		件数	2,529	3,043	▲514
		増減理由	ご登録者が安心しては働き続けられるように面談や職場訪問等を実施し、助言や調整等を行いました。相談内容を精査し、日常生活の相談に当てはまる内容となった相談については、日常生活の支援にカウントしたため、件数は減少しました。		

	離職時調整・離職後の支援	内容	離職時の事業主との調整及び諸手続 離職後の生活設計等の相談に応じて、ご登録者の状況や希望に沿った支援		
		件数	74	114	▲40
		増減理由	離職時の調整及び諸手続き、離職後の生活設計等の相談に応じました。令和6年度の離職者は16名でした。件数は微減となりました。		
	合計		3,864	4,129	▲265

生活面の支援			令和6年度実績	令和5年度実績	増減
	日常生活の支援	内容	職業生活の継続に必要な基礎能力の維持やご登録者の日常生活のリズムの調整、ご登録者の健康管理や金銭管理等に関する相談、助言		
		件数	686	235	+451
		増減理由	ご登録者や家族はもちろん、企業からのニーズの高まりによって、日常生活や健康管理、金銭管理等に関する相談が増加しています。また、相談内容を精査し、就職後の相談のうち、相談内容が日常生活にあたるものは、日常生活の支援にカウントしたため、増加しました。		
	職業生活継続支援	内容	就職前及び就職後のご登録者の不安や悩みを解消するためのカウンセリング、ご家族や職場の同僚との対人関係に関わる相談・調整 単身生活を希望する者に対して、住まいの確保、年金等の申請、福祉サービス等の利用援助等の具体的な支援		
		件数	1,346	1,317	+29
		増減理由	就職前及び就職後のご登録者の不安や悩みを解消するため、相談・調整を行いました。件数は、微増となりました。		
	社会生活支援	内容	休日等の過ごし方、交流の場や金銭の使い方への助言や買い物・娯楽・趣味・地域交流等多様な活動への参加の支援、本人活動等の育成・支援		
		件数	249	283	▲34
		増減理由	休日等の過ごし方、交流の場や金銭の使い方への助言や買い物・娯楽・趣味・地域交流等多様な活動への参加について、相談・調整を行いました。件数は、微減となりました。		
	自己決定支援	内容	働きながら独立を目指したり結婚等の将来設計をしたりする際の、具体的な選択肢や選択した結果に対する責任の取り方等、ご登録者の自己選択や自己決定に対する支援		
		件数	1	10	▲9
		増減理由	ご登録者及びそのご家族等の将来に対する不安や希望を把握し、自己選択を確認しながら実施しました。件数は、ほぼ例年通りでした。		
	合計		2,282	1,845	+437

開拓の促進支援		令和6年度実績	令和5年度実績	増減
	内容	障害福祉サービス事業所等における就労希望者の積極的な掘り起こしと、施設等の経営者、職員、障害者本人に対する一般就労への働きかけや意識改革		
	件数	52	45	+7
	増減理由	就労支援事業所(就労移行支援事業所や就労継続支援B型事業所等)やグループホーム、相談支援事業所等の障害福祉サービス事業所との連携を行いました。件数は、ほぼ例年通りでした。		
	内容	障害者雇用に取り組む企業への継続的な助言や支援		
	件数	197	203	▲6
	増減理由	正社員登用や契約更新等、雇用条件等の変更について、調整や情報提供を行いました。特別支援学校や就労定着支援事業所、職業センター等からの引継ぎに伴い、企業訪問を実施しました。休職や復職について、産業医や企業担当者、医療機関等と調整を行いました。件数は、ほぼ例年通りでした。		
	内容	障害者雇用に取り組もうとする職場の新規開拓		
	件数	39	21	+18
	増減理由	障害者雇用セミナーを開催しました。地元商店街のイベント(ぶんじハロウィン)に参加することによって、顔を見える関係性を築き、地域の障害者理解の啓発、実習受け入れ先の開拓等につながるよう、取り組みを行いました。件数はほぼ例年通りでした。		
	合計	288	269	+19

その他の支援

①インターネットを活用した就労に関する情報収集及び提供

就労支援センターに係るホームページや就労に関する情報を収集し、インターネットに接続できる環境により、国分寺市民や関連機関等に対して事業内容を周知しました。

②関連機関・協力機関とのネットワーク形成

ハローワーク等の行政機関の職員や障害福祉サービス事業所の職員、障害者団体の代表等の関係機関、協力機関と相互に情報交換して連携を図る等の地域における障害者就労支援のネットワークの整備に努めました。

③障害者就労の活性化

就業への準備性を高めるための実習・研修として6名の方が職場実習を行いました(令和5年度4名に対して2名の増加)。また、実習先の一つとして国分寺市役所内で実習を6回行い、30名の方が参加しました(令和5年度16名に対して14名の増加)。

④雇用の啓発

雇用啓発に向けたセミナー等を開催し、障害者雇用の理解促進や情報提供等の啓発的活動をしました。

2. 職員体制

(1)職員体制

就労支援コーディネーター	2名(常勤 2名)
生活支援コーディネーター	2名(常勤 2名)
地域開拓促進コーディネーター	2名(非常勤2名)

(2) 研修

コーディネーターは、各種研修会や他の職種の方との交流、発達障害・高次脳機能障害の研修等のあらゆる機会を利用して、支援技術の向上を図るための自己研鑽に努めました。

① 新人職員研修

新人職員研修を実施しました。

② 全体職員研修

4回実施しました。

③ 外部研修

延べ 28 回、外部研修に職員を派遣しました。(令和 5 年度 21 回に対して、7 回の増加)

3. 事業数値目標

職場定着支援		令和 6 年度実績	目標値	差異
	件数	210	183	+27
	評価	目標を達成できました。 令和 6 年度目標数値 183 名から、27 名上回りました。以前から行っている職場定着支援を継続するとともに、就労定着支援事業所や特別支援学校、関係機関との連携を行い、職場定着できるように支援を行いました。		
登録者数	人数	318	310	+8
	評価	目標を達成できました。 令和 5 年度目標数値 310 名から、8 名上回りました。登録には結びつかなかった方の相談が増加傾向にあること等を考えると、今後とも登録者増が想定されます。 登録に結びつかなかった主な理由は、主治医や関係機関等の意見を確認し、就職活動を行うタイミングにあわせて登録を促すためです。また未登録の方の相談内容として、情報収集を目的とした相談の場合、登録に結びつかないこともあります。		
就職者数	人数	12	20	▲8
	評価	(市全体で 47 人を目標としている中で、就労支援センターからの新規就職者の目標値) 目標を達成できませんでした。 主な原因として 2 点考えられます。職業準備性が整っておらず、長期的な支援・訓練が必要なケースが増えており、就職活動や定着支援に丁寧さ(支援の量と質)を求められることが多いため、就労移行支援事業所や就労継続支援 B 型事業所、職業訓練校等を紹介することが多いこと、また、新卒採用(特別支援学校、大学、専門学校等)や障害者雇用のエージェント等を活用した就職活動も活発になっているため、就職活動の選択肢が多様化していることの影響も考えられます。		

4. 苦情対応に係る対応方針

国分寺市障害者就労支援センターは社会福祉法人けやきの杜が国分寺市より委託を受け運営しています。当法人では運営する施設及び事業所に、その運営を適正かつ健全に行うため、ご登録者又はご

家族等から苦情が出た場合、円滑・円満にその解決を図ることを目的に「苦情解決処理規程」を設けております。就労支援センターにも苦情受付担当者を置き、その仕組みのパンフレットを掲示し、利用されている方に分かりやすく、安心して相談できるように努めました。

5. その他

(1) 就労支援センター運営委員会の開催

様々な障害者の就労支援の充実を図るために、支援事業者等による「就労支援センター運営委員会」を年3回開催し、国分寺市内での連携を図りました。また、計画的な運営を目指し、支援のあり方や職場開拓・就労支援ネットワーク構築等を計画的に実施しました。

(2) 「就労談話室」の開催

就職しているご登録者の職業生活充実を図ることを目的に、職場での不安や悩み事等を話し合っ解決方法を検討・相談し合える意見交換の場として、「就労談話室」を1回開催しました。